



# 第三中学校だより

学校教育目標

気づき・考え・挑戦する ～新時代を生きる力を創造する～

- 校訓
- 健康な体
  - 豊かな心
  - たゆまぬ学習

和光市立第三中学校 〒351-0104 埼玉県和光市南2-2-1  
Tel 048-461-3306 ホームページ <http://3chu.wako-city.ed.jp/>  
なやみごと相談メール [j3-3chu@wako-city.ed.jp](mailto:j3-3chu@wako-city.ed.jp) 相談室 TEL461-6698

令和5年11月1日発行



## 「〇〇の秋」をさがして

校長 近藤 克代

先月の中旬から、昼休みと放課後になると生徒の歌声が校舎中に響き渡ります。合唱コンクールに向けた取組は、学年が上がるに連れて、意気込みや熱量が増し、歌声も成長と共に熟していく気がします。青い空と穏やかな陽の光に包まれた白い校舎。子供たちの元気な歌声に、季節の移り変わりの清々しさと、ほんの少しのノスタルジック（郷愁）な気持ちになってしまうのは「秋」のせいかもしれません。本日、学校だよりの発行日が合唱コンクール当日となります。今年度は各クラスの自由曲に加え、新たに、3年生の学年合唱「ふるさと」が披露されます。3年生の歌声にノスタルジック（郷愁）になり、1、2年生の元気な歌声に心躍るのでしょうか。

話が変わりますが、先日私の最後に担当したクラスの生徒たちに会う機会があり、その時に、花束と便せん（手紙）の封筒（手紙）をプレゼントをもらいました。その手紙には生徒（といっても十分に大人であり社会人ですが）らしい可愛い花柄の便せんに、一目見てその子とわかる字体で丁寧に心を込めたメッセージが記されてありました。考えてみれば、このように便せんに文字をしたためられた「手紙」を受け取ったのは久しぶりかもしれません。「近藤先生へ」から始まった文章を読み始めると、一瞬であの日に戻り自然と心が温かくなりました。

毎年、日本郵便では手紙作文コンクールを実施しているようです。今年の応募はすでに終わっていますが、このコンクールは、「将来を担う子供たちが手紙に親しみ、文章表現によるコミュニケーションを通じて豊かな心を育む」を目的としています。自分の気持ちや考えを文字（文章）で表現するという、当たり前のことが大切とされるのは、スマートフォンやPCなどを利用してメッセージをメールでやりとりすることが主流となっていることが、背景のひとつかもしれません。もちろん、これらの機器を活用すればいつでもどこでも（電波の届く場所）、瞬時に情報等のやりとりができます。一方、便利であるけれど、ネガティブな事例も数多く聞かれ、時には危険であり、関係機関に指導が必要とされるケースもあります。

さて、冒頭のタイトルは「〇〇の秋」です。秋の夜長に、昔聞いた音楽や歌を聞いてみたり、昔読んだ本や絵本を読み返したり、友達やお世話になった方へ手紙を書いてみたり……。ほんの少しの時間、便利な機器の使用を控え、ノスタルジック（郷愁）に浸りながら、自分だけの秋を過ごしてみたいはいかがでしょうか。

ところで、私達は日々生徒が一生懸命に書いた文字に触れています。「何度も書き直しをして、考えをまとめてくれたのだろうな。」「あれ、文字が雑だけどどうしたのかな。」など、生徒の文字から状況や様子がわかる時があります。ですから、15年過ぎた今でも、手紙に記した文字を見て、あの日のことを思い出せるのも、教師冥利に尽きるのかもしれません。

左上の写真は2年生の美術「文字のない絵本」の作品です。中央図書館に展示していました。